

追 悼 の 辞

日時：令和7年7月9日 11時00分～

場所：京都府宇治市五ヶ庄三番割34 黄檗宗大本山萬福寺

本日、ここに「第69回長崎原爆被災者慰霊法要」が執り行われるにあたり、原爆犠牲者の御霊に謹んで哀悼の誠を捧げます。

また、株式会社タナチョー様におかれましては、昭和29年以降、長年にわたり原爆被災者に対する法要を挙行されてこられましたことに、長崎市民を代表して深く感謝申し上げます。

今から80年前の、昭和20年8月9日午前11時2分、長崎市松山町の上空約500mでさく裂した一発の原子爆弾により、長崎の街は一瞬にして壊滅的な被害を受けました。すさまじい爆風と熱線によりおよそ7万4千人の尊い命が奪われ、7万5千人が負傷し、あの日から80年を迎える現在もなお、多くの方々が放射線による後障害に苦しまれています。

今、世界に目を向けると、核軍拡の動きが加速するとともに、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、中東情勢の深刻化など国際情勢は悪化しており、核兵器が再び使用される危機が一層高まっています。また、被爆者の平均年齢は86歳を超え、平和活動を牽引してきた被爆者のいない時代が、刻一刻と近づいてきています。

そのような中、昨年、被爆者の全国組織である日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞し、被爆の実相への関心が高まっています。

さらに、今年は、大阪・関西万博が開催されるなど、世界中から多くの方々の来日が見込まれる中で、被爆80年の節目の年にもあたることから、被爆地長崎や広島を訪問される方が増え、核兵器廃絶へ向けた機運醸成に繋がることが期待されます。

長崎市とししましても様々な被爆80周年記念事業に取り組んでおり、長崎から世界に向けて、平和のメッセージを発信してまいり所存ですので、皆様方におかれましても、核兵器廃絶や平和な世界の実現に向けて、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、改めまして原爆死没者の御霊に心から追悼の意を表しますとともに、本日御参列の皆様の御健康と御多幸を祈念して、挨拶といたします。

令和7年7月9日

長崎市長 鈴木 史 朗